

私を変えた一言

川辺町立川辺中学校 2年 渡邊 華子

「言葉をたくさん覚えたよ」

これは、私が小学校6年生のときに言われた言葉です。私がいた小学校では、入学して間もない1年生のために、6年生が一緒になって遊びます。その1年生の中に、耳が不自由な子がいました。私は当初、6年生という責任から、その子と一生懸命関わろうとしました。最初に会った時はなかなか心を開いてくれず、どう接したらよいか分からなくなったこともありました。今思うと、その時の私は「1年生だから」という思いの他にも、

「障害者だからよけいにちゃんと関わらないと」という思いがあったように思います。

それから、その子と一緒にいる中で私は、「手話」というものを知りました。私は必死になって覚えました。その子と一緒に遊びたかったから一。

それから1ヶ月後、ちょうど桜が散り始めた頃、私はその子に手話で話しかけてみました。するとその子は、「すごい」といわんばかりに、一生懸命応えてくれました。あの時の感動は今でも忘れられません。

それからは、私は手話を使ってその子とたくさんの会話をするようになりました。その頃、私はその子のお母さんに

「あなたのおかげで、言葉をたくさんおぼえたよ」

と言われました。始めはぎこちなかった手話も、少しずつなれてきました。それと同時に私の中で「障害」について考えるようになりました。

そしてその年の夏、私に再び手話を使う機会がやってきました。遊園地へ遊びに行き、ジェットコースターの列に並んでいると、前に手話をしている親子を見つけたのです。私は思い切って声をかけてみました。すると、その親子は私の口の動きや、少しだけできる手話を見て応えてくれました。しばらく話をしているうちに驚くことが分かりました。その家族は、両親と姉妹の4人家族だったのですが、なんと4人とも耳が不自由だったのです。日常生活の中では、きっと不便なこともあると思います。でも、みんなの中では、それが「当たり前」のことなのです。そのことを知ったとき「すごい絆だな。」と感心してしまいました。私たちはジェットコースターを待っている間、様々なことを話しました。ダンスを習っているということ、オバケ屋敷が苦手ということ、そしてその姉妹も私と同じで絶叫系の乗り物が好きだということ…。そこには、障害者だとか、健常者だとか関係なく、ただ仲の良い友達の会話があるだけでした。別れ際には住所を聞きました。今は、時々手紙交換をしています。

私はこれらの出会いを通して、新しい人と出会い人間関係の輪が広がることや、そうして出会った人とコミュニケーションをとることの楽しさが分かりました。

そして、何よりも私の中で「障害者」というものの見方・考え方が変わりました。ともすると私は障害のある方をみて「かわいそう」「自分たちが何とかしなくては」という思いを持ってしまうことがありました。

でも、実際に接してみると「健常者」「障害者」などという区別をする必要がなく、知り合った友達がたまたま「耳が不自由だった」というだけではないかという意識が芽生えました。

手話を通して広がった絆の輪。それは単に耳が不自由な人と交流ができるということだけでなく、知らず知らずのうちに持っていた障害に対する無意識な偏見、勝手なイメージを変えてくれました。

「あなたのおかげで、言葉をたくさんおぼえたよ」
何気ない一言でしたが、私の中では大切にしていきたいと思います。これからもずっと…。